

■ プレストレストコンクリート 工学会のさらなる展開



宇 治 公 隆*

プレストレストコンクリート（PC）工学会の歴史は1958年に始まります。PC工学会の前身であるPC技術協会が、吉田徳次郎先生を初代会長として創立されました。その後、1960年に社団法人への改組・設立が認可され、これまで、PCの普及・発展を目的に活動してまいりました。また、2012年には名称を公益社団法人PC工学会に変更しています。

PC技術協会創立当時、わが国は高度経済成長期にありましたが、その後、オイルショック、バブル景気、構造改革、リーマンショック、そして景気の回復、など浮き沈みを繰り返し、建設業界もこの影響を大きく受けてきました。技術者数の年齢別構成を見ても、社会動向に対応した凹凸があります。

少子・高齢化社会、労働力不足の問題から、建設分野における生産性向上の推進が叫ばれています。将来を担う学生にPCの専門知識を習得させて社会に送り出すことが大学・高専の役割であり、そのためには教員自身、PCを十分に理解していることが重要と考え、会員増加推進小委員会を2014年度に設置し、大学・高専所属の先生に会員となってもらい働き掛けを行っています。現在、個人正会員2500名ほどですが、取組み開始前に比べ、約1.5倍にあたる140名余の先生方が会員登録しています。

これまでの60年を振り返ると、10年ほど前まではPC構造物の新設が主流でしたが、近年は、PC構造物の長期耐久性確保や維持管理も重要な課題となっています。そのため、PC工学会では、2017年5月、「PCサステナビリティ宣言」を公表し、環境性・社会性・経済性のバランスを考慮した合理的なPC構造物の建設・維持管理への取組み、PC技術の伝承、などの活動を開始しました。

社会の変化に対応するためには、技術者一人一人が自己研鑽し、自身の技術力の向上を図る必要がありま

す。そのため、PC工学会では各種講習会を開催するほか、資格制度を設けています。

行事の代表的なものとして、「プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」や「PC技術講習会」があります。前者は2018年で第27回を数え、また後者は全国9会場で開催していますが、2018年で第46回の開催となりました。

PC工学会が付与する資格として、「PC技士」と「コンクリート構造診断士」があります。PC技士制度は1993年度に発足し、登録者数は現在5300名ほどで、PC構造物の計画・設計・施工・管理に従事する技術者として認証しています。また、コンクリート構造診断士制度は2007年度に発足し、登録者数は現在1200名ほどで、PC構造物はもとよりコンクリート構造物の健全度の診断・維持管理を適切に行うことができる技術者として認証しています。

なお、両資格は、国土交通省の「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録」制度に登録されています。2015年、PC技士が橋梁（コンクリート橋）の点検業務に、またコンクリート構造診断士が橋梁（コンクリート橋）の点検業務と診断業務に登録され、さらに2017年、コンクリート構造診断士がトンネルの点検業務と診断業務にも登録されました。これらの資格を多くの技術者が保有し、今後、コンクリート構造物の長期耐久性確保のために活躍することを期待しています。

また、60年の歴史を踏まえ、2018年からPCアーカイブス委員会を設置して、次世代の技術者にPC技術をしっかりと伝承する取組みを始めました。

以上、設立60年にあたり、現在の活動状況を主としてご紹介いたしました。今後とも、PC工学会の活動に対し皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

* Kimitaka Uji：本工学会会長
首都大学東京 都市環境学部 教授